

明治時代、広島貯蓄銀行創設を助言した人物に、大蔵大臣になった阪谷芳郎がいる。芳郎の父朗應は岡山真出身であるが、広島藩に招かれて藩士の教育にも尽力した。その朗應が尊敬し、頼りにしていたのが山田方谷である。

方谷は領民第一主義に基づいて藩政改革を行った。具体的には①産業振興②負債整理③藩札刷新④節約政策⑤民政刷新⑥教育改革の軍制改革の

### 緑地帯 野島 透

七大改革である。詳細については、拙著「山田方谷に学ぶ改革成功の鍵」を参照していただければありがたい。

江戸時代、多くの改革が失

#### 山田方谷の夢実現へ

敗するなか、方谷が成功したのは時代の潮流を読み、柔軟な発想をしたからである。当時は商人の役割とされていた産業振興、商業の流通革命に積極的に関与したのであ

る。地域の特徴を生かした産業振興策にも打って出た。

当時、中国地方の製鉄の産出量は全国の生産量の7割を占めていた。方谷は鉄山、銅

山の開発を藩の直轄事業とした。農機具、

釘などを生産した。なかでも

3本歯の「備中鋏」を改良し

全国に普及させた。火事の多

い江戸の町では「鉄釘」が高

値で売れた。

手元の安価な原材料を用い

て産業を興し、付加価値を付けて売却したのである。さらに方谷は、信用のない藩札を

領民たちの面前で焼却することと藩札の信頼を回復。凶作

に備えて領内各地に貯倉を設

置した。方谷の思想・手法を

学んで会社を立て直した人、

大きくした人がいる。多くの

人に方谷を知っていたら、

日本を明るくしてほしい。

(財務省大臣官房会計課長

東京在住)